



更生 刻々



法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560 (直通)

✉ 1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00101.html



第14号

令和4年10月31日発行

少年たちの思い 外へ

道の駅に 野菜や陶器 継続的に

喜連川少年院で作った野菜や陶器を令和4年10月から「道の駅きつれがわ」において販売することに伴い、10月6日(木)、喜連川商工会館で協定書調印式が行われました。

調印式には、株式会社道の駅きつれがわ代表取締役社長花塚隆志さくら市長と喜連川少年院長の淵上泰郎院長が出席。調印式後には、取組の説明や報道各社からのインタビューが行われ、花塚市長からは「このような前向きな取組が少年の励みになれば」と温かいコメントをいただきました。

在院者が作った野菜などを道の駅で販売する取組は全国でも珍しく、多様な職業体験や出院後の幅広い進路選択に資する矯正教育の一環として実施する新しい取組です。

実際にこの日、商工会館に隣接する同道の駅では、在院者が農薬を使用せずに育てたピーマンやじゃがいもが販売され、多くのお客様が手に取っておられました。

今後は、毎週火曜日と金曜日にさまざまな野菜を入荷する予定です。

近くにお越しの際に探してみたいはいかがでしょうか。



協定に調印した道の駅きつれがわ社長の花塚隆志さくら市長(左)と淵上泰郎喜連川少年院長



販売されている野菜たち

「地域との共生」を運営理念の一つとしている喜連川社会復帰促進センターで作ったPOPも発見！野菜をアピールしています。



更生支援文化は「現在進行形」

10月31日に矯正施設所在自治体会議のブロック会議

全国の「東和」「吉田」「八千代」「大和」など同じ名前を持つ自治体が、「姉妹都市」「姉妹町」として交流を進める…という楽しくなる事例があります。矯正施設が所在する自治体にも、価値ある取組があるのです。刑務所や少年院などの矯正施設があることを共通項とした自治体の間で、「矯正施設所在自治体会議」を設けています。再犯防止や地域活性化策に役立てるための話し合いを持ち、ネットワークを深めています。

全国7ブロック別に地域部会を開催していますが、このうちの関東甲信越地域部会(議長・昭島市長)

が10月31日に開かれます。コロナ禍で、令和2年度・3年度は書面での開催でしたが、今年度はオンライン形式で進められます。全32自治体が参加予定です。

横浜市・静岡市・さくら市から自治体での再犯防止の取組発表、府中刑務所からは矯正施設の取組発表があります。意見交換の場も設けられていて、更生支援の「現在地」を示すものともなりそうです。更生支援文化は刻々と動いています。ぜひウオッチしてください。

会議の様子は、次号でお伝えする予定です。

矯正の世界に 災害時支援の「別の顔」

特別機動警備隊 活動中

【法務省矯正局特別機動警備隊とは？】

平成31年4月、矯正局長直轄の「法務省矯正局特別機動警備隊」(Special Security Readiness Team 通称「SeRT」(サート))が発足しました。

SeRTは、刑務所や少年院等の矯正施設において、暴動、逃走、災害等の緊急の対応が必要となる「非常事態」が発生した場合に、迅速かつ的確に対処することを主な任務としています。また、災害時に施設の一部を避難所として開設した際には、その運営や被災地支援活動も行います。

【どんな組織？】

全国の刑事施設から選抜された刑務官で構成された常設部隊で、日々、警備用具等の使用訓練や災害救助訓練などを行っています。

【災害支援に関する活動は？】

- 東日本台風被害に係る東京拘置所での避難所開設、長野県須坂市での災害復旧活動(令和元年)
- 熱海市伊豆山土石流災害に係る派遣活動(令和3年)



静岡県熱海市伊豆山土石流災害における派遣活動の様子



当時の山下法務大臣から特別機動警備隊長に指揮官の旗が授与されたときの様子

法務省矯正局特別機動警備隊 山川さん

更生刻々

被災地に寄り添う支援活動

実際に私が派遣された熱海市伊豆山地区の土石流災害があった場所では、約二週間にわたり、危険区域に住民の方が入らないよう規制テープを張り、警備を行ったほか、最終日には、要救助者の捜索活動に従事しましたが、急斜面で粘土質の土だったこともあり、心身ともに非常に過酷な現場だったことを鮮明に覚えています。また、危険区域外であっても足元が悪かったため、地域住民の方が外出する際には、荷物を持って一緒に移動するなど、可能な限り、被災された方に寄り添っ

特別機動警備隊に選ばれたときの気持ちを教えてください。
最初に聞いたときは、自分ではないのかという思いもありましたが、専門的なノウハウを習得できるチャンスだと感じました。通常の勤務では経験できないことを学び、広く矯正職員に伝える使命があると思っています。
被災地における支援活動も行っていると聞きました。

更生支援を語る



平成13年に加古川刑務所で刑務官を拝命。姫路少年刑務所での勤務を経て令和3年度から特別機動警備隊勤務。剣道教士七段。

て活動することを心掛けました。非常に暑い時期でしたが、地域住民の方からの温かい言葉と冷たいタオルをいただいたときは、とてもうれしかったですね。
訓練はどのように行っているのですか？

災害対応に特化した救助救出部隊でいうと、さいたま市消防局による指導を受けているほか、警察機関との合同訓練も行っています。

そこで指導いただいた技術・知識を、SBR1内で繰り返し訓練を行い、能力の向上に努めています。私を含め多くの隊員は、やがて現場施設に戻りますので、SBR1で経験したことを全国の矯正施設に伝達し、災害対策能力を持つ職員を増やしていくことも大事な任務だと思っています。



熱海市伊豆山地区での活動の様子